

による hemodynamic therapy を行った。結果：SEP 正常（I 群）12例，DEE（+）（II 群）16例，DEE（-）（III 群）30例であった。III 群中27例は，広範な梗塞巣が出現し，major stroke となったが，II 群では良好な機能回復がみられた。bypass は5例におこなわれ，2例が著明改善，他の3例は内包の限局性の梗塞等のため麻痺の改善が得られなかったが，広範囲梗塞をきたした例はない。結論：DEE（+）例には hemodynamic therapy が有効であり，急性期手術も考慮されるべきである。

#### A-72) Progressing stroke 急性増悪期の緊急 STA-MCA anastomosis

渡辺 孝男・蘇 慶展 (米沢市立病院 脳神経外科)

STA-MCA anastomosis の手術適応に関しては，まだ議論が多く確定をみていない。我々は Progressing Stroke の急性増悪期に緊急 STA-MCA anastomosis を行い，まだ4症例と経験数は少ないが，有効との感触を得ている。今回は4症例を提示し，その病態，術後経過の特徴などにつき検討を行った。〈結果〉1) 4症例とも男性，年齢は60～76才。2) 責任病変は左内頸動脈または中大脳動脈の閉塞。3) 急性増悪期の症状は重度の右片麻痺と失語症，軽度の意識障害。4) 現病歴と手術時期。2症例では TIA, RIND あるいは minor stroke が半年以上前から出現し，投薬にて経過をみていたが，急性増悪症状が発現したため手術施行，24時間以内に血管吻合を完了した。他の2症例では，軽い症状で発症し，一時症状が安定あるいは軽快したが，24時間以内に再び症状増悪を来したため手術施行，急性増悪後12時間以内に血管吻合を完了した。

#### A-73) 急性期脳塞栓症に対する Embolectomy の経験から

畑中 光昭 (十和田市立中央病院 脳神経外科)

目的：Embolectomy は血流再建の目的として STA-MCA anastomosis に比しても優る方法として積極的に行なう方が増えたが，問題も指摘される。脳塞栓，超早期例8例に Embolectomy を行なってきたが，少ない経験からの問題点を述べたい。方法，中大脳動脈 (M<sub>1</sub>) 閉塞6例，内頸動脈閉塞 (C1～2) 2例に対し，6時間以内に Embolectomy，また1例は Embolectomy + STA-MCA anastomosis 施行。問題例 1) M<sub>2</sub> の再閉塞1例，2) 出血性梗塞2例，3) 穿通動脈領域の血流不

全4例，あった。結果，結論：1) M<sub>1</sub> 閉塞例で Embolectomy 完行したが，分枝直後の一枝に Atheroma による狭窄ありこの部分で閉塞した例は対策として，STA-MCA anastomosis の併用が有効。2) 出血性梗塞は2例とも5日以内に発作的血圧上昇 (200mmHg 以上) した例で，術後の血圧調節が大切。3) 4例の穿通枝領域の CT での LD は穿通枝に対する本法の限界かもしれないが，線溶療法との併用，manupulation のくふうを要すると思われた。

#### A-74) 脳主幹動脈閉塞症例に対するウロキナーゼ動注療法

柏原 茂樹・竹田 正之 (砂川市立病院 脳神経外科)  
高山 宏・本田 修 (脳神経外科)  
高村 幸夫 (札幌東徳州会病院 脳神経外科)

急性期頭蓋内主幹動脈閉塞症例に対するウロキナーゼ (UK) 動注療法の報告は散見されるが，その適応や治療成績に対し明確な評価が得られていない。しかし著効例が存在し，また手術による血行再建術や UK の静注療法よりも早く血流再開出来る可能性のある動注療法は，今後適応症例・投与方法等を明確に出来れば，閉塞性脳血管障害に対する有効な治療法の一つとして評価される可能性があると考えられる。そこで当施設での自験例10例を中心に適応，投与方法について文献的考察を加え報告する。対象は内頸動脈閉塞3例，中大脳動脈閉塞5例，脳底動脈閉塞2例の計10例で，UK を12万単位から120万単位動注した。このうち7例に血管写上で再開通と神経症状の改善を認め，2例に出血性梗塞，脳浮腫の増強を認めた。改善を認めた7例のうち半数以上は発症後3時間以内に動注を開始し得た症例で，時間的要因は重要と思われた。

#### A-75) 慢性期脳虚血症例における脳血流不全の診断 <sup>133</sup>Xe SPECT-Diamox test の有用性について

山内 亨・黒田 敏 (北海道脳神経外科 記念病院)  
三森 研吾 (北海道大学 脳神経外科)  
瀧川 修吾・上山 博康 (北海道大学 脳神経外科)  
阿部 弘

(目的) 今回，我々は種々の血行再建術前後の脳循環動態の変化について検討し，Diamox test の有用性を検討したので報告する。(方法) 対象は，TIA から minor completed stroke までの慢性期脳虚血症例23例で全例，患側の内頸動脈あるいは中大脳動脈水平部に高度の狭窄または閉塞を認めた。安静時の mCBF 及び中大脳動脈